【　復活のトロパリ　第４調　】



【　日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ　第４調　】





【　日本の亜使徒聖ニコライのコンダク　第４調　】





【　復活のコンダク　第４調　】



司祭)（　黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、）

司祭）**蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】





司祭)（　默誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

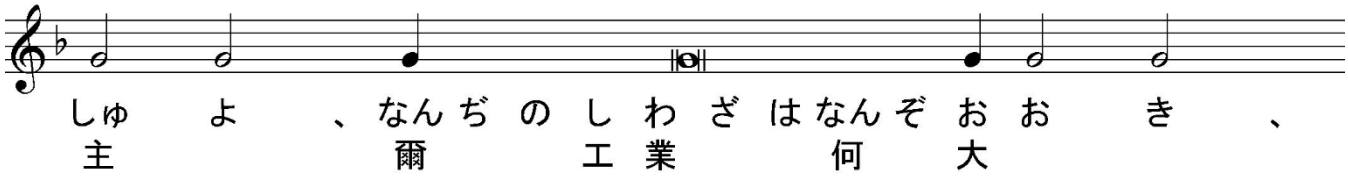
【　提綱（プロキメン）　主日第４調　】

司祭) 愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、第四の調、主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、





誦經) 我(わ)が 靈(たましい) よ、主(しゅ)を讃(ほ)め揚(あ)げよ、主我(しゅわ)が神(かみ)よ、爾(なんぢ)は至(いた)りて大(おおい)なり、





誦經) 主(しゅ)よ、爾(なんぢ)の工業(しわざ)は何(なん)ぞ多(おお)き、



【 使徒(アポストロス)經 203 端 ガラティヤ書 2 章 16 節～20 節 】

司祭) 睿智(えいち)、

誦經) 聖使徒パヴェルがガラティヤ人(じん)に達(たつ)する書(しょ)の讀(よみ)、

司祭) 謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經) 兄弟(けいてい)よ、人(ひと)は律法(りっぽう)の行(おこない)に由(よ)るに非(あら)ず、唯(ただ)イイスス・ハリストスを信(しん)ずるに由(よ)りて義(ぎ)とせらるるを知(し)りて、我等(われら)もハリストス・イイススを信(しん)ぜり、ハリストスを信(しん)ずるに由(よ)り、律法(りっぽう)の行(おこない)に由(よ)らずして、義(ぎ)とせられん爲(ため)なり、蓋(けだし)律法(りっぽう)の行(おこない)に由(よ)りては、人(ひと)一(ひとり)も義(ぎ)とせらるるなし。若(も)し我等(われら)ハリストスに由(よ)りて義(ぎ)とせられんことを求(もと)めて、自(みづから)も猶罪人(なおざいにん)たらば、豈(あに)ハリストスは罪(つみ)の役者(えきしゃ)たるか。非(しか)らず。蓋(けだし)若(も)し我(わ)が毀(こぼ)ちたる者(もの)、我復之(われまたこれ)を建(た)てば、則(すなわち)己(おのれ)の罪人(ざいにん)たるを示(しめ)すなり。我律法(われりっぽう)に由(よ)りて律法(りっぽう)の爲(ため)に死(し)せり、神(かみ)の爲(ため)に生(い)きん爲(ため)なり。我(われ)ハリストスと共(とも)に十字架(じゅうじか)に釘(てい)せられたり。既(すで)に我(われ)生(い)くるに非(あら)ず、即(すなわち)ハリストスは我(われ)の中(うち)に生(い)くるなり。我が今肉体(いまにくたい)に在(あ)りて生(い)くるは、我(われ)を愛(あい)して我(わ)が爲(ため)に己(おのれ)を捨(す)てし神(かみ)の子(こ)を信(しん)ずるに由(よ)りて生(い)くるなり。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。人の義とされるのは律法の行いによるのではなく、ただキリスト・イエスを信じる信仰によることを認めて、わたしたちもキリスト・イエスを信じたのである。それは、律法の行いによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義とされるためである。なぜなら、律法の行いによっては、だれひとり義とされることがないからである。しかし、キリストにあって義とされることを求めることによって、わたしたち自身が罪人であるとされるのなら、キリストは罪に仕える者なのであろうか。断じてそうではない。もしわたしが、いったん打ちこわしたものを、再び建てるとすれば、それこそ、自分が違反者であることを表明することになる。わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

＊＊

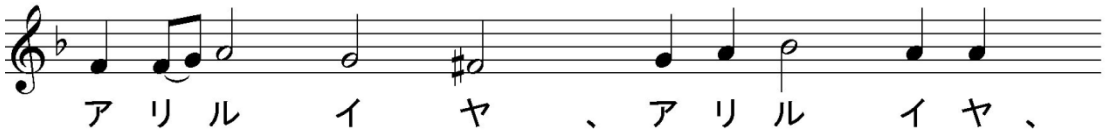
【　アリルイヤ　主日第４調　】

司祭）爾（なんぢ）に平安（へいあん）、

誦經）爾（なんぢ）の神（しん）にも、

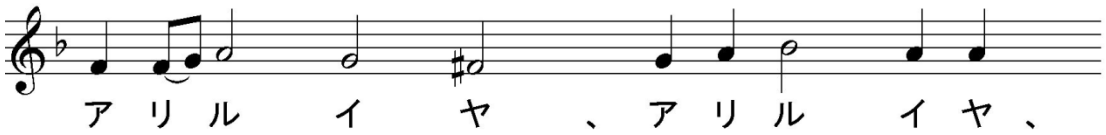
司祭）睿智（えいち）、

誦經）アリルイヤ、



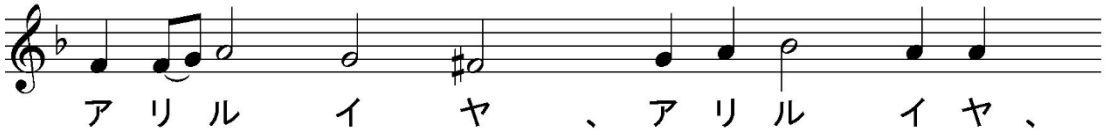


誦經）神（かみ）よ、爾（なんぢ）の寶座（ほうざ）は世世（よよ）に在（あ）り、爾（なんぢ）の國（くに）の權柄（けんぺい）は正直（せいちょく）の權柄（けんぺい）なり、





誦經）爾（なんぢ）は義（ぎ）を愛（あい）し、不法（ふほう）を惡（にく）めり、





司祭)（ 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

【 福音經（エヴァンゲリオン） ルカ福音書 30 端 7 章 11～16 節 】

司祭) 睿智、粛みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聽くべし、彼の時イイスス、ナインと名づくる邑に往けるに、其門徒の多人及び衆くの民は彼と偕に行けり。邑の門に近づきし時、彼處に死者の舁き出さるるあり、母の獨の子にして、其母は嫠なり、邑の民多く彼と偕にせり。主彼を見て、憫みて、彼に謂えり、哭く勿れ、乃ち近づきて、櫬に觸れたれば、舁く者止れり、彼曰えり、少者よ、爾に謂う、起きよ。死者起きて坐し、且言えり、イイスス之を其母に與えたり。衆皆懼れて、神を讃榮して曰えり、大なる預言者は我等の中に興れり、神は其民を眷みたり。

＊＊

（比較用　口語訳）そののち、間もなく、ナインという町へおいでになったが、弟子たちや大ぜいの群衆も一緒に行った。町の門に近づかれると、ちょうど、あるやもめにとってひとりむすこであった者が死んだので、葬りに出すところであった。大ぜいの町の人たちが、その母につきそっていた。主はこの婦人を見て深い同情を寄せられ、「泣かないでいなさい」と言われた。そして近寄って棺に手をかけられると、かついでいる者たちが立ち止まったので、「若者よ、さあ、起きなさい」と言われた。すると、死人が起き上がって物を言い出した。イエスは彼をその母にお渡しになった。人々はみな恐れをいだき、「大預言者がわたしたちの間に現れた」、また、「神はその民を顧みてくださった」と言って、神をほめたたえた。

＊＊



※　聖体礼儀③（金口イォアン）へ